

外国と比較した日本の英語力向上について



宮城県仙台第三高等学校 探究2班

日本の英語教育の現状

〈外国との比較〉
英語教育の盛んな北欧に注目！

○ノルウェー



実践的な早期英語教育
& 日常生活でふれる英語の多さ

○スイス



多様な言語と教育システムによる
グローバルな視点の育成

高校英語教育の現状

〈学習指導要領〉

○コミュニケーションの基盤形成
情報や考えを的確に理解・表現・伝達
外国語を使用する上での目標を明確化

○高校卒業までに覚えるべき単語が
2000語増加

○論理・表現
[ディベート・ディスカッション]

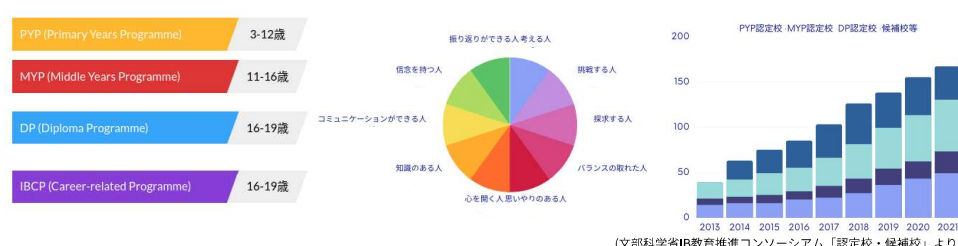
〈三高60回生〉

○本校の英語教師の先生に三高60回生の
英語力についてインタビューを実施
⇒基礎となる4技能5領域すべてを
身につけることが課題

バカロレア教育

〈バカロレア教育の事前学習〉

- ・1968年スイスのジュネーブで成立した
- ・国際バカロレア機構が提供
- ・チャレンジに満ちた総合的な教育プログラム



〈バカロレア教育≠英語教育〉

教養のためのプログラムであり英語教育のためのプログラムではない

●バカロレア教育が目指す10の理想像
＝日本の英語教育に足りないこと？



バカロレア教育から日本の英語教育に活かせる思考のヒントを得る

相模女子大学と関西学院大学との連携

〈相模女子大学〉

○日本の高校英語教育の特徴

→『英語を学ぶ』形であるため『英語で学ぶ』ことを重視していない

⇒語彙力や英語を用いた表現力が必要！

○日本の英語教育に足りないこと

→英語で考えて英語でアウトプット

⇒語彙・表現力が身につく

→文法力を活用する力が弱い

⇒様々なテキストジャンルを用いるべき

○IBを受けている生徒の違い

→タイムマネジメント能力・批判的思考

○IBの向き不向き

→IBは対話的な活動を通して思考力を身につけるプログラム

⇒話を聞いて理解する形の授業が得意な人もいる

⇒人によって向き不向きがある

〈関西学院大学〉

現状

日本の英語教育はテスト対応型
世界で通用する能力を高めるものではない

↓原因

英語の需要度が低く英語教育の開始時期が遅れた

↓IB教育って？

英語力向上<人間性を養う教育プログラム



英語教育≠IB教育ではない

↓4技能を高めるために

言語を学ぶ (文法)
言語で学ぶ (イマージョン教育)
言語を深く学ぶ (批判的思考)

現在の日本では
「言語を学ぶ」
しかできていない

↓言語の本質的な学び

IBが養う高い思考力 (批判的思考)
→日本の英語教育に足りない部分と合致

日本の英語教育×IB教育の実現

まとめ

三高生に合った英語の学習方法と効果対話 (授業内で英語を使う意識)

→コミュニケーション能力の向上によりバカロレア教育が掲げる理想像につながる

文法 (「言語を学ぶ」)

→基礎定着により60回生に不足している知識技能を補う

イマージョン教育 (言語で学ぶ)

→英語に触れる時間を少しでも長く持つことで英語に親しみを持つことができる

関連文献

IBとは/文部科学省IB教育推進コンソーシアム
学習指導要領の変遷高等学校学習指導要領
(平成30年告示) 解説 平成30年7月 外国語編 英語編

ノルウェーの教育制度

ノルウェーの学校/外務省

国際国家スイス

